

一般口演

## 一般口演16

## 医療安全・アラートシステム

2018年11月24日(土) 15:20 ~ 17:20 F会場 (5F 502+503)

## [3-F-2-7] 結果確認漏れ防止に向けたレポート開封通知システム導入の試み

○大迫 朋子, 松崎 勉, 緒方 義史（独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター）

A病院では2012年7月の電子カルテシステム稼働と同時期にアストロステージ社の RIS・PACS・統合ファイリングシステムを導入した。統合ファイリングシステムとは、部門システムを統合し HISの情報も取り込めるシステムであり、当院では全検査結果(PDF・レポート・動画・静止画など)・スキャン文書を表示し診療情報データベースの役割を担っている。近年、検査結果の確認漏れによる医療訴訟が問題となっており、各医療機関で対策を求められている。当院は2017年度、読影医による画像診断報告書9694件、病理医による病理診断報告書3944件報告しており、このレポート数からみて当院でもインシデントを起こしかねない。そこで当院では、現在導入しているアストロステージ社の開封通知システムが適切であると判断し、当院に沿ったシステム機能追加を行った。機能追加した内容として、読影医や病理医がレポートを記載・登録したタイミングで指示医へ未確認レポートがあることをお知らせする ToDo機能の導入、統合ファイリングでの未確認レポートの視覚的表示、開封通知確認を管理する部門に全指示医の未確認レポートチェック機能などがあげられる。また電子カルテシステムよりオーダした指示医が自動で開封通知医師名の枠に表示できるように作成し、読影医や病理医の業務負担の軽減を図った。このレポート開封通知システムを導入したことで、①指示医の未確認レポートの現象が図れた②未確認レポートが減少したことで患者に適切な診療につなぐことができた③開封通知確認を管理する部門が容易に未確認医師をピックアップすることができることで確認依頼を行うことができるようになった。今後の問題点として、ToDo機能から1回でもレポートを開封してしまうと未確認の進捗でも ToDoリストよりレポートが見えなくなってしまうことなどがあげられるため改善に努めたい。

## 結果確認漏れ防止に向けたレポート開封通知システム導入の試み

大迫朋子\*<sup>1</sup>、松崎勉\*<sup>1</sup>、  
緒方義史\*<sup>1</sup>

\*1 独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター

### To prevent an omission of confirmation of the result; about notice of report opening system introduction

OOSAKO TOMOKO\*<sup>1</sup>, MATSUZAKI TSUTOMU\*<sup>1</sup>, OGATA YOSHICHIKA\*<sup>1</sup>

\*1 National Hospital Organization Kagoshima Medical Center

The A Hospital introduced RIS, PACS, a unification filing system of astrostage company in a timing same as electronic chart system operation of July, 2012.

The unification filing system gathers a section system and is the system which the information of the electronic chart system can take in. It indicates PDF, all test results of report animation and a still and a scan document by our hospital and is charged with the role of medical examination and treatment information database. In late years the medical lawsuit by the omission of confirmation of the result becomes the problem, and measures are demanded in each facility. The A Hospital is reported in 9,694 video diagnosis reports by the reading shadow doctor in 2017. In addition, 3,944 pathological diagnosis reports by the pathology doctor are reported. I may raise a similar incident even if I think from the much number of these reports. Therefore the A Hospital judged that the opening notice system included in the package of astrostage company was appropriate. And I performed system function addition along the A Hospital. I report an attempt of the notice of opening system introduction this time. In addition, I report the problems after it operates.

**Keywords:** Opening notice system, Medical lawsuit, Omission of confirmation of the result

#### 1. はじめに

A 病院では 2012 年 7 月の電子カルテシステム稼働と同時期にアストロステージ社の RIS・PACS・統合ファイリングシステムを導入した。統合ファイリングシステムとは、部門システムを統合し HIS の情報も取り込めるシステムであり、当院では全検査結果(PDF・レポート・動画・静止画など)・スキャン文書を表示し診療情報データベースの役割を担っている。

近年、検査結果の確認漏れによる医療訴訟が問題となっており、各医療機関で対策を求められている。A 病院は 2017 年度、読影医による画像診断報告書 9694 件、病理医による病理診断報告書 3944 件報告しており、このレポート数からみて当院でも同様のインシデントを起しかねない。

そこで A 病院では、現在導入しているアストロステージ社のパッケージにある開封通知システムが適切であると判断し、当院に沿ったシステム機能追加を行った。その結果、以下のように問題点を解決するに至った。

- ・レポートを開封することでレポート確認済となる機能の導入による医師の検査結果確認状況が把握可能
- ・読影医や病理医がレポートを登録したタイミングで指示医へ未確認レポートがあることをお知らせする ToDo 機能の導入による業務負担軽減
- ・統合ファイリングでの未確認レポートの視覚的表示による未確認レポート把握可能
- ・電子カルテシステムよりオーダーした指示医が自動で開封通知医師名の枠に表示作成することで読影医や病理医の業務負担の削減
- ・開封通知確認を管理する部門に全指示医の未確認レポートチェック機能による全医師の未確認レポート把握可能

今回、開封通知システム導入の試みと稼働してからの問題点を報告する。

#### 2. 背景

当院は現在レポート未開封によるインシデントは発生していないが、以下の問題点が考えられた。

1. 検査結果の確認漏れによる患者への多大なる影響
2. 読影医や病理医の報告書について主治医が確認しているか不確定
3. 読影医や病理医から主治医への連絡体制不十分

これらの問題点を踏まえ、アストロステージ社の開封通知システムで対応できないか検証・打ち合わせを行い、当院にあった開封通知システムの導入を進めた。

#### 3. 方法および結果

今回第 1 弾として、読影診断並びに病理診断に重点を置いてアストロステージ社の開封通知システムを導入することとした。

##### 3.1 指示医がレポートを開封することでレポート確認済となる機能導入により医師の検査結果確認状況が把握可能

現在の運用は、読影医や病理医がレポートを記載し登録するとアストロステージ社の統合ファイリングにレポートとして表示される。また電子カルテシステム側はアストロステージ社と情報連携を行っており、電子カルテシステム側に報告書の情報が届くと電子カルテシステムの患者一覧で報告書済のマークがつくという進捗管理ができるようになっている。そのため、医師は外来中その患者一覧の進捗を確認し、診察を進めている。また病理結果のように後日レポートが作成される場合や画像検査のみ受診して後日検査結果受診する場合などは医師自らレポートを確認している動きであるため、医師のレポー

ト確認漏れが発生しかねない現状であった。今回、開封通知システムを導入したことで読影医や病理医がレポートを登録した後、指示医がレポートを開封することでレポート確認済の機能ができるようになった。そのことで、画像診断報告書や病理診断報告書において、結果の確認漏れによる患者への多大なる影響を防止することができた。

### 3.2 読影医や病理医がレポートを登録したタイミングで指示医へ未確認レポートがあることをお知らせする ToDo 機能の導入による業務負担軽減

現在の運用は、3.1でも述べている通りである。今回、3.1の機能を導入しても、医師がレポートを確認するためには、患者1人1人のカルテを展開しないといけないう間を省くことはできない。そのため、医師が自らオーダした検査の報告書を一覧で把握でき進捗管理ができるような機能が必要と考え、アストロステージ社と検討した結果、読影医や病理医がレポートを登録したタイミングで指示医へ未確認レポートがあることをお知らせする ToDo 機能で対応する動きとなった。このToDo 機能は電子カルテシステム側でログインしたタイミングで自動的に画面展開されるように電子カルテシステムと調整を行った。今回 ToDo 機能を導入したことで医師が自らカルテを開かなくても確認が必要なレポートの一覧がログイン者毎に表示されるため、医師は未確認レポートが容易に把握することができるようになった。その結果、医師が患者1人1人のカルテを展開することなく、レポートの確認ができ、進捗も開封済に変更できるような動きが可能となり、医師の業務負担軽減へとつながった。

### 3.3 統合ファイリングでの未確認レポートの視覚的表示による未確認レポート把握可能

3.2のToDo 機能の動きである程度進捗管理が容易になったが、操作面で1つ問題が発覚した。それはToDo 機能の進捗管理の一覧よりレポートを開き、開封済するにチェックをつけないで登録した場合、リストより消えるという動きである。このToDo 機能については、あくまでも一覧が表示されるという動きであるため、その一覧より一度でもクリックすれば開封未・済関係なく、一覧より消えるという動きであった。これを消えたものも表示することもできるが過去分が全て表示されるためレスポンスが悪く、なおかつリストより検索する手間も増えることが考えられたため、もう1つの策を考えた。それは、未確認レポートがある場合、指示医の統合ファイリングの画面上のみオレンジ色で表示するといった視覚的表示の機能追加である。この対応を行うことで、ToDo 機能で開封済を行わなかったレポート系が統合ファイリング上で視覚的に表示されていることで指示医に一目で把握可能となった。ただし、この視覚的表示はあくまでも医師が自らカルテを開くといった行為があつて初めて生かされる機能である。

### 3.4 電子カルテシステムよりオーダした指示医が自動で開封通知医師名の枠に表示作成することで読影医や病理医の業務負担の削減

2017年度は読影医が9000件以上、病理医が3000件以上レポートを指示医に報告している。開封通知システムを導入する上でその読影医や病理医に負担をかけることなくシステムを導入することができないかを検討した結果、電子カルテシステム側のオーダ(指示)医の情報を生かして、レポート作成するときに開封通知医項目に自動で指示医を反映する動きを導入できることとなった。この対応を行うことで、読影医や病理医は今までと同様の操作のみで対応できるようになり、一

切負担かけることなく開封通知システムを導入することができた。そのことで読影医や病理医の負担削減につながった。

### 3.5 開封通知確認を管理する部門に全指示医の未確認レポートチェック機能による全医師の未確認レポート把握可能

開封通知システムを導入し、医師がレポートを確認すると開封済になるという動きは整備できたが、実際全医師の未開封レポートが把握できるような一覧が必要と考え、アストロステージと話し合った結果、現在使用しているアストロステージ社の STELLAR Order システムで管理者のみ全医師の未確認レポート一覧が把握できる機能を追加することができた。これを導入したことで全医師の未開封レポート件数が把握できるようになり、定期的に医師への呼びかけやリストアップのツールに用いることができた。その結果、管理部門においても業務負担なく活用することができた。

## 4. 考察

医療事故情報収集等事業の再発・類似事例の報告件数を確認すると、画像診断報告書の確認不足が2016年度は4件、2017年度は17件と増加している。また電子カルテシステム上でレポート系の未読がわかるシステムがなかった事例については32件中25件と多い。

このように、年々増加傾向にある結果確認漏れによるインシデントにおいては、どの医療機関も対応を求められているが、人でカバーしようとするといずれ限界が来る。そのため、当院は電子カルテシステムで対応すべきであると考えた。

今回、開封通知システムを導入したことで指示医の未確認レポートの減少が図れた、未確認レポートが減少したことで患者に適切な診療につなぐことができた、開封通知確認を管理する部門が容易に未確認医師をピックアップすることができることで確認依頼を行うことができるようになった。これらのことより、医師の業務負担軽減、開封通知確認を管理する部門の業務負担軽減も確立することができた。

今後の課題として、オーダした医師の異動があった場合、新しく担当になった医師はオーダ医ではないため、未開封一覧には表示されない。その結果、レポートを見落としてしまう可能性がある。これについては、読影医や病理医と連携してレポート作成時開封通知医項目を手動で新担当医師へ変更するように依頼中である。また、現在のToDo 機能の仕組み上、ToDo 機能の進捗管理の一覧よりレポートを開き、開封済するにチェックをつけないで登録した場合、リストより消えてしまう。これについては、アストロステージ社に再度システム対応できないか要望中である。

## 5. まとめ

今回、現在導入しているアストロステージ社のパッケージにある開封通知システムを導入した結果、医師の業務負担することなく導入することができた。また管理部門の業務負担なく活用することができた。考察にも述べた今後の課題について運用調整並びにシステム整備を行い、結果確認漏れによるインシデントを発生させないように努めていきたいと考える。

## 参考文献

- 1) 再発・類似事例の分析 医療事故情報収集等事業 公益財団法人 日本医療機能評価機構, 2017.

[[http://www.med-safe.jp/pdf/report\\_2017\\_3\\_R001.pdf](http://www.med-safe.jp/pdf/report_2017_3_R001.pdf)].

- 2) 西川彰則,入江真行, 結果確認漏れ防止アラート機能導入の試み,第37回医療情報学連合大会,2017 ;355

